千里金蘭大学紀要　p.91～99（2009）

乳幼児を育てる母親における親族以外の子育て支援者の実態と支援内容の特徴

Providers of childcare support for mothers of infants outside the family and the characteristics of support

草野　恵美子[1]、小野　美穂[2]、高山　智子[3]

要　旨

本研究では，地域社会全体による子育て支援に向けて，乳幼児を育てる母親における親族以外の日常的な子育てに関する支援者の実態を把握するとともに，親族以外の支援者による支援内容の特徴について検討することを目的とした。乳幼児を育てる母親を対象に無記名の質問紙調査を実施し，218人から得た回答を分析対象とした。親族以外の支援者では，主に近くに住む同年代の知人・友人が最も重要な支援者となっていることがわかった。また日常的な子育てに関する支援は親族内から得ていることが多いが，内容によっては親族内よりも親族以外から支援を得ていることが推測された。親族以外の支援者による支援内容の特徴については，情緒的な支援や情報的な支援は比較的提供されているものの，直接的な援助となる手段的な支援は提供されにくいことが示唆された。

キーワード：子育て支援 Childcare Support，乳幼児 Infant
母親 Mother，地域 Community

Ⅰ．緒言

現在わが国では少子化が依然として進行しており，総務省統計局によると，平成21年4月現在の年少人口割合は13.4％と過去最低となっている[1)]。少子化の進行に伴って，子育ての社会的孤立[2)]や虐待，育児ストレス[3~5)]などの子育てに関する問題も深刻化している。特に3歳未満の乳幼児の子育ての約85％は家庭内，主に母親によって行われおり[6)]，核家族化の進行や地域共同体の機能が衰退する現代において母親をとりまく状況は厳しい。このような状況に対して，個人のみによる解決は難しく，地域社会全体で子育て環境を整える子育て支援策が求められている。

地域社会全体による子育て支援のためには，親族のみならず，親族以外の支援者も重要な役割を果たす必要がある。しかしながら前述の通り，地域共同体の機能が衰退する現代においては，隣近所の住民から自然に支援を受けるといったような，親族以外の子育て支援者から支援を受ける，いわゆる昔ながらの子育てができる地域は少なくなっている[7)]。よって親族以外の地域住民が子育て支援者となるには，何らかの社会的取組みが必要と考えられる。2006年6月に政府の少子化社会対策会議にて決定された「新しい少子化対策について」においても，社会全体の意識改革や地域連帯，社会全体で子どもを大切にする重要性について示されている[8)]。

親族以外の支援者が参画する地域全体での子育て支援につなげるためには，まず親族以外の支援者の実態について把握する必要があると考えた。これまで子育て支援者についてはいくつか先行研究[9~14)]があるものの，親族内に焦点をあてたものが多く，親族以外の支援者の年齢層等の詳細について把握された研究はほとんどみあたらない。

1 Emiko KUSANO 千里金蘭大学看護学部 地域・広域看護学講座 （受理日：2009年10月１日）
2 Miho ONO 福岡県立大学看護学部
3 Tomoko TAKAYAMA 国立がんセンター がん対策情報センター

さらに，親族以外の支援者からは，どのような種類の支援が提供されやすく，逆に提供されにくいのかといった支援内容の特徴について現状把握することは，親族以外の支援者による支援内容を検討する際に有用と考えられる。そこで，本研究では乳幼児を育てる母親における親族以外の日常的な子育てに関する支援者の実態を把握するとともに，親族以外の支援者による支援内容の特徴について検討することを目的とした。

Ⅱ．研究方法

１．調査方法（研究対象者およびデータ収集方法）

2006年1～2月に大阪府Ａ市実施の乳幼児健診を受診した乳幼児の母親472人に無記名の自記式調査票を配布し，健診時に設置した回収箱または郵送にて回収した。乳幼児健診の種類は，4ヶ月児(調査実施時の平均受診率90.7%，以下同様)，1歳6ヶ月児(100%)，3歳6ヶ月児健診(73.9%)と2歳6ヶ月児健康スクール（83.8%）であった(各月１回。2歳6ヶ月児健康スクールのみ1月のみ)。乳幼児健診では，乳幼児を連れての受診の上に調査票への回答は母親への負担をかける可能性もあるため，健診の初めに行われる集団の健康教育の場を借りた調査説明の際に，回答については待ち時間を利用するなどして回答が可能な場合は健診当日に回収箱へ投函を，当日の回答が難しい場合は返信用封筒を用いての郵送による返却を依頼した。回収数は243部(回収率51.5%)であった。地域住民による支援を想定し，主に家庭内で子育てをしている母親を対象とするため，週40時間以上勤務している21人と就労状況が無回答であった2人を今回の検討からはずすこととし，218人の回答を分析対象とした。

２．調査内容

地域における親族以外（以後，親族外）の支援者の実態を把握するためには，親族内の支援者も把握して比較検討する必要があるため，調査では，子育てに関する支援項目のそれぞれに対して，親族外の支援者とともに親族内における支援者についてもたずねた。

子育てに関する支援項目については，地域における親族外からの支援を想定して，日常的な支援内容に着目し，まず，先行研究[9～14]を参考にした。ただし，先行研究では，主に親族内に焦点をあてたものが多い。また，親族外では，同年代の友人をとりあげていることが多く，近所の知人については，支援者の年齢層の詳細まで検討した研究はほとんどみあたらない。本研究では，地域全体での子育て支援を視野に入れているため，少子高齢化社会において，近年，人材として注目度があがっている中高年世代の支援者についても把握する必要があると考えた。ただし，中高年世代を世代間交流の相手として検討された研究[15,16]や親族内の中高年世代の支援についての研究[17,18]はあるものの，親族外の支援者として焦点をあてた研究がみあたらないため，親族外の中高年世代からの支援も含めた支援項目作成のために，事前調査を行った。

事前調査は，大阪府Ａ市において子育てネットワーク活動を行っているグループの協力により2005年3月に実施した。対象者は，このグループ主催の「赤ちゃんサロン」に参加の母親29名と，同市内の子育てサークル活動に参加の母親37名，計66名であった。無記名の自記式調査票を配布し，郵送にて30名より回答を得た。親族外の中高年世代から受けていると思う支援の内容について自由記述にて回答を得て類似したものを集めて整理し，子育てに関する支援項目の候補を挙げた。また上述の先行研究も参考にし，23項目を抽出した。その後，子育て中の母親3名の協力を得て内容についての検討を行い，最終的に17項目に整理した。

可能な限り詳細な実態を把握するために，支援者の種類については，親族外の支援者として近所および近所以外の知人・友人(それぞれ60歳代以上，40～50歳代，20～30歳代に分類)，地域の役員・ボランティア，専門職(例として保健師・保育士・医師・幼稚園・小学校の先生等を提示)，その他に分類して，各支援項目ごとにそれぞれの支援者がいるかどうかについて複数回答にてたずねた。また，親族内については，配偶者／パートナー，実父母，義父母，自分の兄弟・姉妹，配偶者の兄弟・姉妹，自分又は配偶者の祖父母，その他の親戚とした。

その他，回答者の背景に関する項目を含めた。

3．分析方法

1）各支援項目について，支援者の種類ごとに，支援者の有無について把握した後，親族外および親族内に一人以上支援者がいる割合に違いがあるかについて検討するために，McNemar 検定を行った。有意水準は5%とした。

2）親族外の支援者からの支援内容の特徴について把握するために，親族外に支援者がある者と親族内に支援者がある者の割合をもとにクラスター分析(Ward 法)を行って支援項目を分類し，特徴について検討した。

なお，解析には統計ソフト SPSS14.0J for Windows を用いた。

4．倫理的配慮

文書および口頭による説明を行い，調査票の返却をもって本研究への参加の同意を得ることとした。また，岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学研究倫理審査委員会の承認を得た。

Ⅲ．研究結果

1．回答者の背景(表1)

平均年齢32.9±4.1歳で，89.4%が核家族であり，子どもの平均人数は1.8±0.8人であった。現在の住居に住んでいる年数は1〜5年未満が約6割で最も多く，また約6割が一軒家，4割近くが集合住宅に居住していた。またフルタイム就労者を除いた今回の分析対象者のうち，まったく就労していない者は80.7%であった。

表1 回答者の背景

N=218

項目		n(%) または平均値±SD
平均年齢		32.9±4.1(歳)
年齢の分布	29歳以下	39(17.9)
	30〜34歳	99(45.4)
	35〜39歳	67(30.7)
	40歳以上	10(4.6)
家族形態	核家族	195(89.4)
	複合家族	23(10.6)
子どもの人数	1人	75(34.4)
	2人	109(50.0)
	3人以上	32(14.7)
子どもの平均人数		1.8±0.8(人)
住居形態	一軒家	131(60.1)
	集合住宅	85(39.0)
	その他	1(0.5)
居住年数	1年未満	24(11.0)
	1〜5年未満	129(59.2)
	5〜10年未満	49(22.5)
	10年以上	15(6.9)
就労状況 ※1	就労していない	176(80.7)
	週1〜20時間未満	18(8.3)
	週20〜40時間未満	24(11.0)

無回答は除く
※1 週40時間以上就労している者は今回の分析の対象外としている。

2．子育てに関する支援者の種類

各項目において支援者として挙げられた割合が最も多かった者は，親族外の支援者では，各項目とも近所の20〜30歳代の知人・友人の割合が最も多く，次いで近所以外の20〜30歳代の知人・友人であった(表2)。子育ての相談や悩みをきく支援など，項目によっては専門職も1割以上挙げられていた。60歳以上の世代が支援者として挙げられている割合は全体的に少なく，「6.こどもをほめてくれる」「7.こどもをかわいがってくれる」といった項目については約1割程度であったものの，ほとんどが5〜6%未満であった。

親族内の支援者では各項目とも配偶者／パートナーまたは実父母であった(表3)。これらの支援者よりは割合が少ないものの，義父母や自分の兄弟・姉妹の割合も比較的多く，離乳食や子育てのアドバイス，情報，経験談の提供などでは，配偶者／パートナーより多い項目もみられた。

表2　子育てに関する支援者の種類（親族外）

上段（人）（複数回答）
下段（%）　N＝218

	支援項目	近所の知人・友人			近所以外の知人・友人			地域の役員・ボランティア	専門職	その他
		60歳代以上	40～50歳代	20～30歳代	60歳代以上	40～50歳代	20～30歳代			
1	子育てについて相談にのってくれる。	13 (6.0)	26 (11.9)	161 (73.9)	2 (0.9)	14 (6.4)	121 (55.5)	15 (6.9)	41 (18.8)	3 (1.4)
2	子育てで悩んでいるときに気がついてくれる。	6 (2.8)	18 (8.3)	90 (41.3)	0 (0)	4 (1.8)	46 (21.1)	0 (0)	9 (4.1)	0 (0)
3	子育ての悩みについて聞いてくれる。	13 (6.0)	27 (12.4)	154 (70.6)	4 (1.8)	16 (7.3)	117 (53.7)	8 (3.7)	30 (13.8)	1 (0.5)
4	子育ての大変さを理解してくれる。	15 (6.9)	31 (14.2)	159 (72.9)	3 (1.4)	18 (8.3)	120 (55.0)	5 (2.3)	18 (8.3)	2 (0.9)
5	自分の子育てに対してねぎらいの言葉をかけてくれる。	14 (6.4)	30 (13.8)	121 (55.5)	3 (1.4)	11 (5.0)	85 (39.0)	6 (2.8)	17 (7.8)	1 (0.5)
6	子どもをほめてくれる。	22 (10.1)	47 (21.6)	155 (71.1)	6 (2.8)	17 (7.8)	91 (41.7)	11 (5.0)	32 (14.7)	1 (0.5)
7	子どもをかわいがってくれる。	23 (10.6)	42 (19.3)	151 (69.3)	6 (2.8)	13 (6.0)	95 (43.6)	9 (4.1)	32 (14.7)	2 (0.9)
8	自分に用事ができたとき、子どもをあずかってくれる。	4 (1.8)	12 (5.5)	69 (31.7)	0 (0)	3 (1.4)	15 (6.9)	0 (0)	13 (6.0)	0 (0)
9	自分が具合が悪いときに、子どもをあずかってくれる。	1 (0.5)	8 (3.7)	53 (24.3)	0 (0)	2 (0.9)	12 (5.5)	0 (0)	9 (4.1)	0 (0)
10	子育てのストレスがたまったとき、リフレッシュする時間を持つために、協力してくれる。	1 (0.5)	8 (3.7)	54 (24.8)	0 (0)	1 (0.5)	32 (14.7)	1 (0.5)	10 (4.6)	0 (0)
11	子どもと遊んでくれる。	11 (5.0)	31 (14.2)	127 (58.3)	4 (1.8)	10 (4.6)	71 (32.6)	6 (2.8)	27 (12.4)	1 (0.5)
12	子どもが悪いことをしたときにしかってくれる。	13 (6.0)	28 (12.8)	97 (44.5)	3 (1.4)	5 (2.3)	45 (20.6)	1 (0.5)	24 (11.0)	0 (0)
13	離乳食や幼児食について教えてくれる。	3 (1.4)	19 (8.7)	106 (48.6)	1 (0.5)	8 (3.7)	67 (30.7)	2 (0.9)	14 (6.4)	1 (0.5)
14	参考になる子育ての情報を教えてくれる。	7 (3.2)	25 (11.5)	143 (65.6)	2 (0.9)	10 (4.6)	88 (40.4)	5 (2.3)	23 (10.6)	1 (0.5)
15	参考になる子育てに関するアドバイスをくれる。	9 (4.1)	30 (13.8)	129 (59.2)	2 (0.9)	13 (6.0)	86 (39.4)	7 (3.2)	24 (11.0)	1 (0.5)
16	参考になる子育ての経験談を話してくれる。	11 (5.0)	34 (15.6)	125 (57.3)	3 (1.4)	12 (5.5)	89 (40.8)	6 (2.8)	15 (6.9)	1 (0.5)
17	自分の子育てについて認めてくれる。	11 (5.0)	26 (11.9)	122 (56.0)	3 (1.4)	13 (6.0)	90 (41.3)	3 (1.4)	20 (9.2)	1 (0.5)

表3　子育てに関する支援者の種類（親族内）

上段（人）（複数回答）
下段（%）N＝218

	支援項目	配偶者/パートナー	実父母	義父母	自分の兄弟・姉妹	配偶者の兄弟・姉妹	自分又は配偶者の祖父母	その他の親戚
1	子育てについて相談にのってくれる。	199 (91.3)	188 (86.2)	90 (41.3)	78 (38.5)	43 (19.7)	9 (4.1)	22 (10.1)
2	子育てで悩んでいるときに気がついてくれる。	150 (68.8)	113 (51.8)	31 (14.2)	27 (12.4)	6 (2.8)	2 (0.9)	6 (2.8)
3	子育ての悩みについて聞いてくれる。	188 (86.2)	170 (78.0)	68 (31.2)	66 (30.3)	25 (11.5)	5 (2.3)	15 (6.9)
4	子育ての大変さを理解してくれる。	165 (75.7)	177 (81.2)	102 (50.5)	69 (31.7)	34 (15.6)	12 (5.5)	17 (7.8)
5	自分の子育てに対してねぎらいの言葉をかけてくれる。	129 (59.2)	126 (57.8)	83 (38.1)	37 (17.0)	14 (6.4)	11 (5.0)	11 (5.0)
6	子どもをほめてくれる。	194 (89.0)	194 (89.0)	162 (74.3)	96 (44.0)	63 (28.9)	35 (16.1)	27 (12.4)
7	子どもをかわいがってくれる。	211 (96.8)	205 (94.0)	183 (83.9)	131 (60.1)	100 (45.9)	48 (22.0)	51 (23.4)
8	自分に用事ができたとき、子どもをあずかってくれる。	127 (58.3)	155 (71.1)	91 (41.7)	27 (12.4)	11 (5.0)	4 (1.8)	5 (2.3)
9	自分が具合が悪いときに、子どもをあずかってくれる。	118 (54.1)	134 (61.5)	71 (32.6)	19 (8.7)	10 (4.6)	4 (1.8)	3 (1.4)
10	子育てのストレスがたまったとき、リフレッシュする時間を持つために、協力してくれる。	157 (72.0)	125 (57.3)	57 (26.1)	26 (11.9)	9 (4.1)	3 (1.4)	3 (1.4)
11	子どもと遊んでくれる。	205 (94.0)	165 (75.7)	128 (58.7)	85 (39.0)	60 (27.5)	17 (7.8)	27 (12.4)
12	子どもが悪いことをしたときにしかってくれる。	204 (93.6)	147 (67.4)	94 (43.1)	51 (23.4)	24 (11.0)	10 (4.6)	9 (4.1)
13	離乳食や幼児食について教えてくれる。	12 (5.5)	109 (50.0)	52 (23.9)	33 (15.1)	19 (8.7)	4 (1.8)	6 (2.8)
14	参考になる子育ての情報を教えてくれる。	28 (12.8)	112 (51.4)	60 (27.5)	52 (23.9)	33 (15.1)	4 (1.8)	15 (6.9)
15	参考になる子育てに関するアドバイスをくれる。	33 (15.1)	136 (62.4)	68 (31.2)	50 (22.9)	24 (11.0)	8 (3.7)	13 (6.0)
16	参考になる子育ての経験談を話してくれる。	10 (4.6)	150 (68.8)	87 (39.9)	45 (20.6)	29 (13.3)	12 (5.5)	17 (7.8)
17	自分の子育てについて認めてくれる。	165 (75.7)	158 (72.5)	96 (44.0)	49 (22.5)	30 (13.8)	12 (5.5)	15 (6.9)

3．親族外の支援者がいる割合（親族内との比較）

各支援項目について，親族外に一人でも支援者がいる割合を親族内と比較した(表4)。親族内ではほとんどの項目において8割以上が親族内に支援者がいたことに比して，親族外で支援者がいる割合については，9割以上いる支援項目もあれば，約3割という項目もあり，幅が大きくなっていた。特に半数を下回っていたものについて挙げると，「8.自分に用事ができたとき子どもをあずかってくれる」(41.7%)，「9.自分の具合が悪いときに，子どもをあずかってくれる」(31.7%)，「10.子育てのストレスがたまったき，リフレッシュする時間を持つために

協力してくれる」(36.2%) であった。

一部を除き，ほとんどの項目において，親族内に支援者がいる割合の方が有意に大きくなっていたが，「14.参考になる子育ての情報を教えてくれる」については，親族外に支援者がいる割合の方が有意に大きくなっていた。

表4　各支援項目における親族外および親族内に支援者がいる割合

上段(人)
下段(%)　N＝218

支援項目	親族外の支援者が1人以上いる者	親族内に支援者が1人以上いる者	
1　子育てについて相談にのってくれる。	201 (92.2)	215 (98.6)	**
2　子育てで悩んでいるときに気がついてくれる。	122 (56.0)	183 (83.9)	**
3　子育ての悩みについて聞いてくれる。	200 (91.7)	213 (97.7)	**
4　子育ての大変さを理解してくれる。	200 (91.7)	214 (98.2)	**
5　自分の子育てに対してねぎらいの言葉をかけてくれる。	162 (74.3)	181 (83.0)	n.s.
6　子どもをほめてくれる。	193 (88.5)	217 (99.5)	**
7　子どもをかわいがってくれる。	197 (90.4)	218 (100)	－
8　自分に用事ができたとき、子どもをあずかってくれる。	91 (41.7)	194 (89.0)	**
9　自分が具合が悪いときに、子どもをあずかってくれる。	69 (31.7)	179 (82.1)	**
10　子育てのストレスがたまったとき、リフレッシュする時間を持つために、協力してくれる。	79 (36.2)	196 (89.9)	**
11　子どもと遊んでくれる。	174 (79.8)	218 (100)	－
12　子どもが悪いことをしたときにしかってくれる。	135 (61.9)	214 (98.2)	**
13　離乳食や幼児食について教えてくれる。	146 (67.0)	147 (67.4)	n.s.
14　参考になる子育ての情報を教えてくれる。	184 (84.4)	167 (76.6)	*
15　参考になる子育てに関するアドバイスをくれる。	178 (81.7)	185 (84.9)	n.s.
16　参考になる子育ての経験談を話してくれる。	178 (81.7)	191 (87.6)	n.s.
17　自分の子育てについて認めてくれる。	172 (78.9)	203 (93.1)	**

＊P<0.05、** P＜0.01 (McNemar検定) 「－」は、検定できず。

4．親族外および親族内における支援者割合による分類

親族外および親族内において支援者のいる割合をもとに，クラスター分析を行って支援項目を分類した結果，図1のように二つのクラスターが見出された(クラスターⅠ：項目1，3〜7，11，13〜17，クラスターⅡ：項目2，

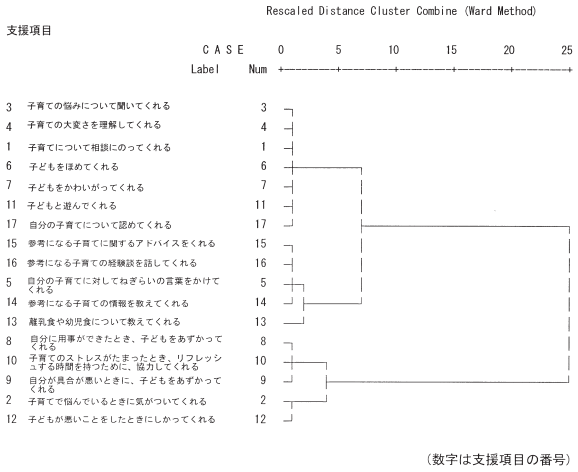

図1　親族外および親族内における支援者割合による分類(クラスター分析によるテンドログラム)

8〜10，12)。またクラスターⅠは①項目1，3，4，6，7，11，17と②項目5，13〜16の2つのまとまりから，クラスターⅡは①項目2，12，②項目8〜10の2つのまとまりからそれぞれ構成されていた。

親族外からの支援者の割合は，クラスターⅠ，クラスターⅡの順に高くなっていた(図2)。

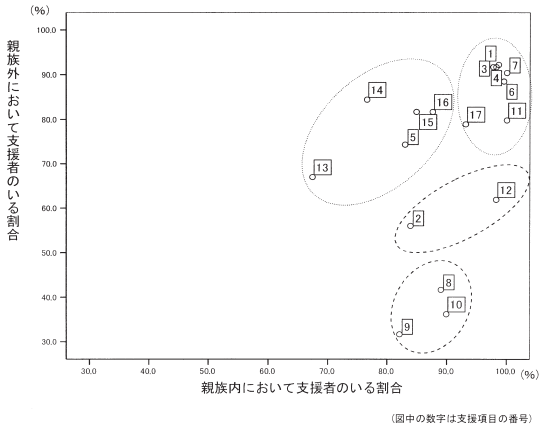

図 2　親族外および親族内において支援者のいる割合の散布図

Ⅳ．考察

1．回答者の背景

今回の回答者は，子どもの人数は1〜2人である者があわせて約8割となっていた。また89.4%が核家族であり，全国において児童のいる世帯の73.4%が夫婦(またはひとり親)と子のみの世帯である[19]ことと比べると，やや高い傾向にあった。また居住年数は約7割が5年未満であり，調査地が大都市近郊のベッドタウンであることもふまえると，今回の回答者は古くからその地域に住んでいるというよりも，他市から転入し核家族世帯で子育てを行っている者が多いことが窺えた。

2．子育てに関する支援者の種類

親族外の支援者については，どの項目においても20〜30歳代の近所の知人・友人が最も割合が多くなっており，主に近くに住む同年代の知人・友人が最も重要な支援者となっていることがわかった。それに比して，近所の知人・友人の中では60歳代以上についてはどの項目においても割合は一番少なく，ほとんどが1割未満であった。子どもの数も多く，地域共同体のつながりが強かった時代においては，親族内における助け合いに加え，身近な地域における助け合いやふれあいなどを通じて子育てを地域全体で支援するという機能が働いていたとみられる[20]。しかしながら近年では地域社会での人間関係は希薄化しており，このような結果については予測されたものの，子育てや仕事がひと段落した者が多い中高年世代，しかも親族外の者が地域において自然と日常的に子育ての支援者になることは少ないという現状について今回明確に把握することができた。

親族内においては，支援者として挙げられている割合の最も多かった者は各項目とも，配偶者／パートナーまたは実父母であった。先行研究[9,13]においても重要なサポートの提供者は配偶者および両親となっており，今回も同様の結果となっていた。また先行研究[14]では，配偶者は重要な支援提供者ではあるものの，支援内容によっては主要なサポート源となっていない場合もみられた。本研究でもその傾向はみられ，今回はより詳しい支援内容について尋ねた結果，「13.離乳食や幼児食について教えてくれる」「15.参考になる子育てに関するアドバイスをくれる」「16.参考になる子育ての経験談を話してくれる」といった項目は割合が少なく，配偶者も母親と同じく子育て中であることから，経験を要する支援の提供者となることは難しく，実父母など経験者からの支援を必要としていることが考えられた。

3．親族外の支援者がいる割合

親族外では項目によっては約3割というものもみられる一方で，親族内ではほとんどの支援項目で8割以上の者が支援者がいると答えていた。人々の暮らしが地域の関わり合いの中で成立していた時代は子育てに地域の人々が関わることも多かったが，現代では乳幼児の子育ては主に親族内で担っていると考えられ[21]，今回の研究からもこれらの日常的な子育てに関する支援は親族内から得ていることが多いことがわかった。ただし，「14.参考になる子育ての情報を教えてくれる」のように，親族外に支援者がいる割合の方が多い項目もあり，内容によっては親族内よりも親族外から支援を得ていることが推測された。

また，今回の結果では，「13.離乳食や幼児食について教えてくれる」という項目に関する支援者がいる割合は，親族外・親族内に差はなく，親族外67.0%，親族内67.4%となっていた。働く女性の社会進出などにより子どもの食事の種類・調理方法は多様化しており[22]，20〜30年前の実父母の子育て当時とは食生活様式や食の問題が異なることもある。よって他の支援に比べて離乳食などのアドバイスは親族内からも得ることが難しくなっていることが考えられる。

4．親族外における支援内容の特徴に関する検討

親族外および親族内において支援者のいる割合をもとに，クラスター分析を行って支援項目を分類し，親族外における支援内容の特徴についての検討を試みた。その結果，親族外からの支援者の割合が高い順に，クラスターⅠの①(項目1，3，4，6，7，11，17)，②(項目5，13〜16)およびクラスターⅡの①(項目2，12)，②(項目8〜10)に分類された。子育てに関する支援を，「ある人を取り巻く，重要な他者(家族，友人，専門職など)からのさまざまな形の援助」といったソーシャル・サポート[23]の一種ととらえた場合，上記のように分類された支援項目がそれぞれどのような性質のものであるかについて，House らのソーシャル・サポートの分類を参考に検討した。House らはソーシャル・サポートを1.情緒的サポート，2.手段的サポート，3.情報的サポート，4.評価的サポートに分類している[24]。これに今回の支援内容をあてはめてみると，クラスターⅠの①の7項目のうち5項目(項目1，3，4，6，7)が情緒的サポート，クラスターⅠの②の5項目のうち4項目(項目13〜16)は情報的サポートと考えられた。またクラスターⅡの①の2項目についてはそれぞれ情緒的サポート(項目2)と手段的サポート(項目12)と考えられ，クラスターⅡの②の 3 項目(8〜10)は全て，手段的サポートと考えられた。図2より親族外において支援者のいる割合は，概ねクラスターⅠの①，②，クラスターⅡの①，②の順に高いことが推察されたことから，親族外の人々から一番得られやすい支援が情緒的な支援，次いで情報的支援であり，最も得られにくい支援が手段的な支援であることが考えられた。

地域住民同士のつながりが希薄になった現代とはいえ，何らかの形で親族外からも子育ての大変さについて共感するといったような情緒的な支援については比較的得られている一方で，子どもをあずかるといったような，直接何かを行う支援は親族外からは得られにくい現状が推察された。特に個人的に子どもを預かるとなると，時間や場の提供だけでなく，責任も伴い支援者側の負担も大きいと考えられ，また親族外にそれほどの信頼関係を築いている他者がいない場合には，母親は預けたくても気軽には預けられないという状況も考えられる。一時保育のための様々なサービスも増えつつあるものの[25]，費用などの問題からも，在宅で子育てをする母親にとってそのような機会はまだ限られていると考えられる。しかしながら本調査の自由記載からも母親自身の病院通院，育児ストレスを解消するといったような際に子どもを預けたいという希望があることは窺える。最近ではシルバー人材センターにおいて乳幼児の世話などの支援を行うなど，手段的な支援が提供されており，特に個人同士でのつながりが少ない地域などでは，このように組織的にできるだけ安価での支援提供の機会を増やすこともニーズに対応する1つの方法と考えられる。

また，情報的な支援については，これらの項目は親族内において他の項目に比べて支援者の割合が低い傾向にあった。情報社会の現代において，インターネット上での最新の情報提供など，情報的な支援は手段的な支援よりは親族外の地域住民からも支援が提供しやすいと考えられる。中でも子育ての経験談やアドバイス，地域の情報提供といった内容については，同年代の子育て仲間に加えて，子育ての経験があり，地域のことをよく知る中高年世代も貢献する可能性が考えられる。先述の「新しい少子化対策について」においても，地域の退職者，高

齢者等の人材活用が重要な施策の1つとして掲げられている[8]。今回の結果では，親族外の地域の中高年世代が支援者になっていることは非常に少ない現状が推察されたが，今後，経験豊かな中高年世代が地域における様々な子育ての担い手の一員として活躍する可能性やその方策についても検討する必要があると考えられる。

育児期にある母親の心身の負担を軽減するためにはソーシャル・サポート・ネットワークの存在が必要と指摘されている[26]。もちろん親族内の支援や同年代のピア・サポート的な支えあいは依然重要な役割を果たすことに変わりはないが，地域全体での子育てに向けて，さらに様々な地域住民が支援者となることを可能にする社会的取り組みが重要と考えられる。

5．本研究の限界と今後の課題

今回，日常的な子育てに関する支援者の実態について検討したが，親族内だけでなく親族外からも受けることのできる可能性の高い支援に重点を置いたため，経済的な支援などは含まれていない。支援内容の種類についてさらに検討する必要があると考えられる。

また，今回は主に家庭内で乳幼児を育てる母親への地域住民からの支援に焦点をあてたため，フルタイムで就労している母親については検討していない。これらの母親に対する支援も当然必要であり，子育てと仕事の両立なども重要な施策として挙げられているが，主に家庭内で乳幼児を育てる母親とはソーシャル・サポート・ネットワークも違うこともあり[26]，別のアプローチが必要と考えられ，今後検討が必要と考える。

また，母親の年齢など背景別に検討することも必要と考えられたが，今回は分析対象者数が少なかったこともあり十分検討できなかった。回収率の向上も含めて，今後の課題である。

さらに，親族外の支援者からの支援内容の特徴について検討したが，母親がどの程度親族外からの支援を求めているかといった具体的ニーズについては，今回把握できていない。今後の希望をたずねた自由記述式の回答からは地域住民が子育て支援に参画することを望む希望もみられたが，今後より明確にしていく必要があると考えられる。同時に，どのような支援方法が効果的かといった検討についても今後の課題である。

謝　辞

お忙しい中，調査にご回答頂きましたお母様方，調査実施に際しご協力賜りましたＡ市子育てサークルネットワークの皆様，Ａ市の職員の皆様に感謝申し上げます。また，ご助言賜りました大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 早川和生教授に深謝いたします。

なお，本研究の一部は，第65回日本公衆衛生学会総会にて発表した。

参考文献

1）総務省，人口推計（平成21年4月1日現在），http:／／www.stat.go.jp／data／jinsui／tsuki／index.htm（2009年9月30日引用）

2）鎌田佳奈美・石原あや・川村千恵子：乳幼児をもつ母親の内的ワーキングモデルと社会支援に対する態度との関連,大阪府立大学看護学部紀要13(1)：1－8,2007

3）奈良間美保，兼松百合子，荒木暁子，他：日本版 Parenting Stress Index（PSI)の信頼性・妥当性の検討，小児保健研究58（5）：610－616，1999

4）野口純子，小川佳代，松村惠子：乳幼児を育てている母親の悩みと育児ストレス－保育所児と幼稚園児の比較－，香川県立保健医療大学紀要2：79－86，2005

5）日下部典子，坂野雄二：育児に関わるストレッサーの構造に関する検討，ヒューマンサイエンスリサーチ　8：27‐39，1999

6）内閣府：地域の子育て支援拠点の整備,平成18年版少子化社会白書．東京：日経印刷株式会社,pp49－52,2006
7）加藤翠：母親の就労と子育ての変遷と動向，小児内科　24（5）：641-644，1992
8）内閣府．少子化対策の取組．内閣府編．平成20年版少子化社会白書．東京：佐伯印刷，　pp22－55，2008
9）藤生君江・中野照代・荒木田美香子 他：幼児を持つ母親の就業状況別家族機能とソーシャルサポート,聖隷クリストファー大学看護学部紀要11：85－99，2003
10）丸　光恵・兼松百合子・奈良間美穂 他.：乳幼児期の子どもをもつ母親へのソーシャルサポートの特徴,小児保健研究60(6)：787－794，2001
11）荒木美幸・渡辺鈴子・池田早苗 他：育児期にある母親に対するソーシャルサポートの実態－有職の母親と無職の母親との比較－，長崎大医療技術短期大学部紀要13：127－132，1999
12）荒木美幸・渡辺鈴子・池田早苗 他：育児期にある母親に対するソーシャルサポートと育児ストレスとの関連性，長崎大医療技術短期大学部紀要14(1)：89－95,2001
13）海老原亜弥・秦野悦子：保育園・幼稚園児を育てる母親の育児負担感－ストレッサー，コーピング，ソーシャル・サポートの関係，小児保健研究63(6)：660－666，2004
14）鵜山愛子・久米美代子：産後1ヶ月の母親が必要としているソーシャル・サポートの検討，日本ウーマンズヘルス学会誌4：19－31，2005
15）片岡万理・千浦淑子・森本恵 他：世代間交流による痴呆老人の生活の質(QOL)に対する効果の研究，大和証券ヘルス財団研究業績集,25：168－173,2002
16）藤原佳典・渡辺直紀・西真理子 他：児童の高齢者イメージに影響をおよぼす要因，日本公衆衛生雑誌54(9)：615－624，2007
17）Merril Silverstein, Stephen J. Conroy, Haitao Wang, et al.：Reciprocity in Parent-Child Relations Over the Adult Life Course, Journal of Gerontology: social sciences　57B(1): S3－S13, 2002
18）Adam Davey, DJ Eggebeen: Patterns of Intergenerational Exchange and Mental Health, Journal of Gerontology: Psychological sciences, 53B(2): P86－P95, 1998
19）内閣府：子育て家庭の変化,平成18年版少子化社会白書．東京：日経印刷株式会社,pp89－91,2006
20）内閣府：家族の役割と子育てに対する意義,平成18年版少子化社会白書．東京：日経印刷株式会社,pp92－98,2006
21）小川晴美・土谷みち子：現代の子育て,「あたりまえ」が難しい現代の子育て支援．東京：フレーベル館,pp101－104,2007
22）土取洋子：乳児の授乳方法と離乳期の栄養に関する調査研究：3歳児の母親を対象として,母性衛生45(4)：445－453,2005
23）小澤温：ソーシャルサポート研究の歩みと保健・福祉,園田恭一・川田智恵子 編,健康観の転換．東京：東京大学出版会,pp267－275,2001
24）James S. House: The Nature of social support, Work stress and social support, Reading, Mass: Addison Wesley, pp13－40, 1981
25）内閣府：地域や社会全体で家庭教育を支える環境の整備,平成19年版少子化社会白書．東京：日経印刷株式会社,pp119－121,2007
26）山田英津子・有吉浩美・堀川順子 他：働く母親のソーシャル・サポート・ネットワークの実態,J UOEH 産業医科大学雑誌27(1)：41－62,2005